

おいでませ、やまおと  
こ

アンチャン

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

サンムーンのカキの試練で出てきたやまおとこのダイチを知っているだろうか？  
間違い探しでも当然のように現れる爽やかなアイツだ。

そんなダイチに転生した、一人の男の旅日記。

# 目次

転生、	1
1 冊目	1
学校	8
2 冊目	



# 転生、1冊目

転生者。そういう用語が二次創作界限に存在する。

要は人気作品に現実世界から転生したオリ主が神様から貰った特典でヒヤッハーする割とポピュラーな奴なのだが、それは所詮妄想によつて書き上げられたものだ。見て楽しむ分はともかく、現実でそんなことが起こるはずがない。そう思つてたのに――

「萌え幼女たんハアハア……もとい、尊き子供の命を身命を賭して守つてくれたキミを転生してあげよう。私の事はまあ……フランクに伊達と呼んでくれ」

トラックに轆かれそうになつた幼女を突き飛ばして代わりに撥ねられたと思つたら、何時の間にか何も無い真っ白な空間にポツンと置かれたベンチに座つていて、伊達と名乗る禪一丁の眼鏡美形男子の神様に肩を抱かれていた。本気で勘弁してほしい。

夢は現実に。ジャンプの某人気ヒーロー学校漫画の一節が脳裏に浮かんだ。まさ

か自分が二次創作の主人公みたいな境遇に陥るとは思いもしなかったけど、このまま死ぬのも怖いしお言葉に甘えて転生することにした。

で、いざ転生するにしても色々決まりがあるらしく、なんでもテンプレ通りに物語に転生させた奴らが特典で好き勝手に過ぎて物語がヤバいくらい無茶苦茶になってしまったから、これからは転生させる物語をクジで決め、物語に合わせた良識ある範囲での特典1つと、それに合わせたデメリツト特典を1つ持たせて転生させるらしい。まあ、俺自身はバトル物とかに転生してもあんまり積極的に戦いたくないので、特典についてはあんまり心配していない。ちなみにもし、特典で好き勝手に過ぎてたらどうなるのかと聞いたたら――

「H A H A H A！ その時は神の裁きが雨あられ、脳天に降り注ぐさ。ラピユタの雷100連打よろしくネッ！」

陽気に笑う伊達さん。何それ怖い。

まあ、そんなこんなで転生する世界をクジで引くことにした。ちなみに中身は俺の理解が深い作品だけで構成されているらしい。まかり間違つて死亡フラグ満載の Fate とかは御免被りたい。

意を決してクジを引くと、そこには『ポケットモンスター』と書かれてあった。これには安堵の息が出る。色々物騒な組織が現れることがあるが、比較的平和な世界観で、

なにより動物好きの俺からすればモンスターとモフモフライフが満喫できる。

そして次は転生物の目玉、転生特典の決定だ。これには少々悩んだが、特にバトルに積極的に関わる気が無くても、ポケモンの世界観では生活全体にポケモンと人間の共存が描かれているが、興行ではバトルが主流。新しい人生がどうなるか分からない以上、ある程度の備えは必要かと思う。というわけで、俺が望んだ特典とそれに合わせたデメリット特典はこれだ。

手持ちポケモンが全て個体値最高のの6V。

原作メインストーリーや主要登場人物に関する記憶消去。

うーん、事件に関する知識が無いのは痛い、高確率で一般人になるであろう俺には関係のない話だな。

「さあ、これからエロと幼女に満ちた物語が待っている。それでは冒険にレッツゴー！」  
お巡りさん、早く来てください。

こうして俺は転生した。

有名な登山撮影家の父……というか、完全に『やまおとこ』だ。俺の父親完全に『や

まおとこ』だ。オメガルビー・アルファサファイアまで出てきた恰幅のいい『やまおとこ』だ。観覧車の悲劇で有名な『やまおとこ』だ。原作の重要な話は全然分らないのに、こういうところだけ覚えてるってどうよ？

まあ、そんな観覧車の一件以降悪名高い『やまおとこ』な父だが、実際は豪快で気の良なおじさんって感じた。前世と合わせて精神年齢が高い俺だが普通に尊敬のできる自慢の父だ。

そんな父と小柄で童顔な母との間に生まれ、ダイチと名付けられた時、何か頭に引つかかった気がした。はて？

それからなんやかんやあって、俺も11歳の頃に子供の頃からの相棒であるヨーギラスと共に旅立ってから9年が経ち、すっかり大人になった。父と母の中間位の良い感じの容姿に生まれ、この度俺は婿入りする形で結婚することに。

それに伴って荷物の整理をしていると、子供の頃から今でもつけている日記を見つけた。何だか懐かしい気持ちになり、荷物整理を終わらせてから日記を捲り始めた。

---

○月？日　にほんばれ





せぬ。お腹がグルグルいってて気持ち悪い。これが個体値6Vの力か。

○月▲日 ノーてんき

元々狂暴で知られるバンギラスの子供であるヨーギラスは中々の暴れ者。一人前のトレーナーである父と、何故か母には懐いているが俺には中々心を開いてくれない。そんな俺に父は「まずはポケモンの目線に立ち、対等になる事が大切だ」と教えてくれた。確かに、相手は人間並みの感情を持つ生き物だ。明日から実践してみよう。

△月?日 すなおこし

ヨーギラスの野郎、こつちが下手に出てりや付け上がりやがって。そんなに力を示したいなら、俺と血反吐吐くまでボクシングをして分かり合おうじゃないか。物理的に誰が主人か分からせてやる。

?月■日 ひでり

今日はヨーギラスの「いわおとし」を躲してアツパーを決めてやった。そしたら拳が割れて病院に行くことに。

幸いちゃんと治るらしいけど、ヨーギラス超硬い。流石岩タイプといったところか。

▽月○日 かんそうはだ

すつかり日課となったヨーギラスとのコミュニケーション（物理）に初めて勝った。超嬉しい、と思ったのも束の間。あの野郎、腹いせのつもりか晩飯は俺の好物であるメンチカツだったのに俺の分食いやがった。許せん。

■月■日 あめうけざら

最近自覚したんだけど、ヨーギラスはなんだかんだ言ってる俺の傍によく居る。言葉こそ通じないけど、今ヨーギラスが何を求めているのか、俺が何を求めているのか、分かんないけど、喧嘩は相変わらず絶えないけど、ヨーギラスが近くにいるのは結構楽しい。気を使うことのない悪友って感じで。

?月?日 ゆきがくれ

ヨーギラスが俺のプリン食った。絶対に許さん。本気で泣かす。明日告白すれば両想いになれる伝説の木の下で釘バットを持ってヨーギラスを待つことにしよう。

## 学校 二冊目

■月?日 あられ

ヨーギラスの奴、朝俺を起こすのに「いわおとし」しやがった。おかげで朝っぱらから喧嘩になったし、まだ顔が痛い。アイツは何なの? いちいち攻撃しないとコミユニケーションが取れないの? 今はまだ体が小さいしレベルも低いから何とか対応できるけど、これがバンギラスに進化したら俺死ぬんじゃない? ヨーギラスを進化させないか、それとも俺が強くなるべきか、悩みどころだ。

OR月AS日 エアロツク

常日頃コミユニケーション(物理)が耐えない俺とヨーギラスに業を煮やした父が、俺たちにトレーナーズスクールに通うように言ってきた。今更タイプ相性だのバトルをいろはだのを学ぶものはないような気がするけど、他のトレーナーとポケモンがどんな

風に付き合っているのかを勉強してこいとのことだ。流石に言い返せないので大人しく従うことに。

それはそうと、今日自転車漕いでたらヨーギラスの奴が「あなをほる」で地面に穴をあけて俺を落としやがった。仕返しに「くろいてつきゆう」持たせて池に放り込んでやった。ざまみろ！

H G月 S S日 ノーてんき

今日はトレーナーズスクール入学初日。チャリンコに乗っていこうとしたら、ヨーギラスがさも当然のように後ろの荷台にクッション敷いてスタンバってた。ドヤ顔うぜえ。

で、入学式終わって教室に入って自己紹介。当然と言えば当然だけど、皆年相応の精神年齢してて、俺凄いい場違いなような気がする。男子はバトル厨、女子は子供ながら大人らしさを追求している。先生は先生で10歳前後を相手にするような態度で居辛いのなんの。こんなんで俺大丈夫か？ 小学校でボッチとか苛めの対象でしかないような気がするんだけど。

X月 Y日 デルタストーム

トレーナーズスクール舐めてた。最初はてつきり炎タイプは水タイプに弱いですがなお勉強でもするのかと思ってたけど、まさかタイプ相性の科学的メカニズムとかポケモントレーナーとして守らなければならない規則とか法律の勉強するとは思わなかった。思いの外高度な勉強で気合が入ったけど、ヨーギラスの奴が俺の昼飯のカレーパン食いやがった。許せない、奴の口一杯にポケモンフード捻じ込んで腹パンしてやる。

○月■日 すなおこし

拳が割れて病院に行ってきた。ヨーギラス超硬い。

G月▽日 あめふらし

案の定と言うべきか何と言うべきか、話が合わない生徒ばかりで学校で浮いた存在である俺を標的にするガキ大将が現れた。見た目は短パン小僧で名前はゴローというらしい。何やら不当な罵倒をぶつけてくる。やれダイチ菌が移るだの、やれ俺の母ちゃん出ベソだの、レベルが低すぎて俺は相手にしていない。ヨーギラスですら鼻で嗤うレベルだ。まあエスカレーターするようなら釘バットを使ったコミュニケーションをすればいいだろ。

×月B日 すなかき

ゴロー少年、短パン小僧の癖にポツチャマ手持ちにしてやがる。コラツタでもエースにしていればいいものを。

で、何でこんなことを書いているかという、今日この日の怒りと憎しみを生涯忘れない為だ。

近所の行きつけのパン屋の期間限定豚の角煮パンを昼飯に買った今日。この日ばかりはヨーギラスとも意気投合して仲良く食べようとしたら、ゴローのダニ野郎のポツチャマが「みずでっぽう」で俺たちの豚の角煮パンをグシヨグシヨにしやがった。

共通の敵が現れると人は争いをやめるとは正にこの事。俺は釘バツで、ヨーギラスは「いわおとし」で頭蓋を粉碎してやろうとすると、教師が必死になって止めてきた。納得がいかなければなら決着は明日ポケモンバトルで付けようと提案。なんとというデュエル脳ならぬバトル脳。大人しくゴローとポツチャマの首を差し出せばいいものを。

だが俺とヨーギラスは大人の♂、その提案を受け入れた。明日はどんな風に痛めつけてくれようか。

K月〇日 おわりのだいぢ

水タイプVS岩／地面タイプの絶望的相性差を覆し、俺とヨーギラスの大勝利！

馬鹿正直に「みずてつぼう」撃つてきたので「あなをほる」で回避、そのまま地面から強襲してポツチャマの首から下を地面に埋めてやると、後頭部に「いわくだき」を連発。防御が6段階くらい下がったのを見計らい、「いわおとし」でフィニッシュ。

あの時の絶望した表情を浮かべるゴローと瀕死のポツチャマは見ていて爽快だったぜ！

▲月■日 ぼうじんゴーグル

今日学校に来たらゴロー含めクラスメイト全員から目を逸らされた。今になって思うと、昨日のバトルは中々残虐ファイトだったと思う。反省はもちろんしていない。しかしこの状況は困った。正直ポツチなのはこの際気にしないけど、三者面談とか家庭訪問の時に両親に「ダイチ君は友達いません」とか言われると、やっぱり心配かけちゃうよなあ……。

T月? 日 うるおいボディ

今日も今日とて俺のプリンを食ったヨーギラスの頭蓋を叩き割ろうとしたら、「いわなだれ」で反撃食らった。こいつ、着実に強くなつてやがる……！ 奴を倒すためには、

俺も新たな力を手にしなければなるまい。とりあえず、ヨーギラスが寝たら顔面に「く



ろいてつきゆう」を叩き付けてやる。

V月◇日 ダークウエザー

最近、ポケモンバトルの授業で組んでくれる奴がない。今でこそ先生とばかり組んでるけど、まるで勝ち星が上げられねえ。これ成績に悪影響とかないよな？ だって向こうのレベルの方が明らかに高いし、生徒対教師だし。落ちこぼれ扱いは嫌だぞ。

○月○日 はじまりのうみ

来る日も来る日も岩の雪崩に巻き込まれ続けながら鍛錬を続け、今日遂に「いわなだれ」の攻撃範囲から離脱するための縮地をマスターした。これでヨーギラスの奴をざまあしてやるぜ！

|| || || ||

ダイチという男子生徒は、10歳前後の少年少女が集まるトレーナーズスクールの中では異物だった。歳不相応の大人びた性格かと思いきや、手持ちポケモンと喧嘩を繰り広げる狂暴性を持つ子供。基本的に、いわゆる「良い子」の割合が多い子供のトレー

ナーからすればダイチは極めて取っ付きにくい性格と言える。

そんなダイチと他の生との間に大きな溝が出来たのは、クラスの生徒間で強い影響力を持つゴローとのポケモンバトル以降だ。結果としてダイチの圧勝だったが、それは決してゴローが弱かったわけではない。むしろ同年代の中では強い方だろう。水タイプと岩／地面タイプのポケモンバトルで水タイプに勝利したダイチが異常なのだ。

ゴローとダイチのバトル、水タイプの攻撃を一撃受ければ倒れるヨーギラスに対し、ゴローは最適解の「みずでつぼう」を指示したが、ヨーギラスは何の指示も受けずに「あなをほる」で回避と強襲、身動きを封じてから「いわくだき」で防御力の低下とダメージを同時に行い、止めに「いわおとし」。その間ダイチは「殺れ」という一言だけしか呟かなかった。

トレーナーとしての指示能力が無いのかと考えたが、その割にはヨーギラスはよく鍛えられている。その齟齬に疑問を感じ、担任教師のヒナコはそれとなく勝利の秘訣をダイチに聞いてみると――

「いや、お互いどんなポケモン使ってくるのか目星がついてましたし、俺が逆の立場ならアイツと同じことしてましたよ。だったら初撃を躲して動き封じてボコボコにしてやろうぜーって、ヨーギラスと事前に打ち合わせしたんです。後は最初の作戦が失敗した時の次善策も4つくらい考えましたね」

それ以降、ダイチはその頭角を現し始めた。生徒間でもポケモンバトルでは負け知らず……それどころか一方的な残虐ファイトに生徒たちはダイチとバトルをするのを嫌がり、校内では教師しかダイチの相手は務まらないほどだ。

必然的に自分よりも実力が上の相手ばかりを相手にするダイチはますます生徒では手が付けられないほどに成長した。基本的にトレーナーは攻撃に対して「躲せ！」や「受け止めろ！」、攻撃の際にも「回り込んで！」や「○○の顔に！」といった指示したりするが、ダイチはそれをしない。

「いや、ヨーギラスも自分で考えて動きますし、それを外野からあれこれ指示出してたら動きが鈍るでしょ。必要な時だけ指示出せばいいかなって思ってます」

この言葉に、ヒナコはダイチとヨーギラスの間にある深い絆を見た。バトルはポケモンの能力とトレーナーの指示が基本だ。それをポケモン自身に状況に合わせた動きを任せ、指示を出すことによって発生するロスタイムを無くすなど、ポケモンを信じ切らなければできない方法。

トレーナーの歴史上類を見ない戦い方をする10歳児、その上學問の覚えも人一倍早く、何百通りもあるタイプ相性もすべて暗記しているという。この話を聞いた校長は、「これは我が校始まって以来の育成の天才が現れたのかもしれない」と強い関心を示したほどだ。

いまではバトルの実習教師から非公認で英才教育を受けているダイチ。戦えば戦うほど力を身に付けている彼とそのポケモンの姿に、ヒナコは彼らが何時の日かポケモンリーグの頂点に立つ光景を幻視した。